

ともしび通信



コープともしびボランティア振興財団

〒658-0081 神戸市東灘区田中町5丁目3番20号(生活文化センター西館2階)
TEL078-412-3930 FAX078-412-3871 <http://www.tomoshibi-found.or.jp/>
発行人=小倉 修悟 編集人=秦 正雄

セルフヘルプセミナー 「セルフヘルプグループへの支援と協働」を開催 ～「一緒に」そして「どうやって」すすめるか、を学びあおう～

コープともしびボランティア振興財団では、昨年より、セルフヘルプについて学びあうセミナーをひようごセルフヘルプ支援センターとの共催で開催しています。その中で、「どんな関わり方が求められているのか」「ボランティアグループ支援とどう違うのか」といった声もあり、今回は、11月21日(金)、兵庫県民会館で支援者、専門職を対象に、第9回セルフヘルプセミナーとして開催しました。

障がいや病気・介護などの困難を抱える当事者で作るセルフヘルプグループは、同じ立場で気持ちや分ちあひ、生きづらさを軽減できる居場所となるだけでなく、当事者自らが助けあ

いながら、よりよく生きるヒントを得ることのできる活動です。今回は主に支援者を対象に、当

事者グループとのよりよい協働をどのようにすすめるかをテーマに開催。専門職や行政の担当職員、セルフヘルプグループの当事者合わせて46名が参加しました。

はじめに、ひようごセルフヘルプ支援センター代表の中田智恵海さんから、セルフヘルプグループの社会的位置づけ、支援する意義、さらに専門職が関わるタイミングに「当事者のために、ではなく、当事者とともに働くこと、やっであげたい症候群に注意」等、気をつけるべき点を学びました。

続いて当事者と支援者双方からの事例報告を行いました。多胎児の育児支援では、支援者、当事者両方の立場として、元尼崎市保健センター保健師で自身も双子の親である「ひようご多胎ネット」の大岸弘子さん。精神障がいでは、当事者グループの支援をしてこられた地域活動支援センター夢工房大久保センター長の大西月美さんと、当事者として「ドリームファクトリー」代表の渡口泰子さん、最後に介護者家族の支援では、支援者として西宮市社会福祉



非常に盛り上がったグループディスカッション

協議会の柳井淑絵さん、当事者として認知症介護者の会「さくら会」の増尾千代美さんに、会の成り立ちから、行政や社協との協働についての経緯などをそれぞれの目線で語っていただきました。

後半のグループディスカッションでは、前半の発表の感想や登壇者への質問を中心に活発な意見交換が行われ、あつという間の3時間でした。

アンケートでは、「行政との交渉の仕方や会の運営について学べてよかった」「初めて聞く話で多くの気づきを得られた」「グループディスカッションでは、支援側と当事者側双方の生の声が聞けてとてもよかった」「これからの社会のニーズとしてセルフヘルプグループは重要。また開催してほしい」等の意見がありました。

当財団では今後も、セルフヘルプグループを一般社会に広めるためのセミナーを継続して行っていく予定です。

ご協力ありがとうございました 「つなぐ」アンケート ご報告について

当財団のボランティア活動助成を活用して地域で活動されているボランティアグループのみなさんと、賛助会員として財団ひいてはボランティア活動を支えてくださっているみなさん双方の声をお聞きし、支え手と活動者をつなぐアンケートを2008年7～8月に実施しました。多数のご回答、ご協力をありがとうございました。賛助会員、助成グループのみなさんには結果を今号と同送していますので、ごらんください。今後もみなさんのお声を生かし、よりお役にたてる活動を進めてまいりますので、引き続きのご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

2009年度ボランティア活動助成 申請説明会開催中

当財団では毎年、兵庫県内で活動するボランティアグループへの活動助成を行っています。2009年度助成について、2008年12月～本年1月にかけて、県内8か所で開催しています。今年度は、10月1日に、新たにホームページを開設し、助成の応募要項も公開しました。2009年度新規申請についてはすでに受付を締め切りましたが、継続申請されるグループは必ず説明会へのご参加をお願いします。

